〈研究論文〉

日系アメリカ人と非日系アメリカ人の日本語学習に対するイメージ
―個人別態度構造分析（PAC 分析）による質的研究―

原　　やす江

【要旨】

本稿はアメリカの大学で日本語を学ぶ日系アメリカ人と非日系アメリカ人の学生 5 人が日本語や日本語学習に対してどのようなイメージを持っているかを個人別態度構造分析（PAC 分析）を用いて明らかにしようと試みたものである。その結果、5 人とも日本語学習について難しさを感じながらも何らかの恩恵を感じており、肯定的なイメージを抱いていることがわかった。そして、そのイメージは個々の日本語学習歴の中で経験した出来事や費やした努力の大きさに影響されること、どの立ち位置から対象を眺めるかによってイメージに差が表れることが観察された。また、日系人学習者は皆エスニシティに関わるイメージを抱いているが、その影響の仕方は日系のタイプや家庭におけるエスニシティの保持の有無によって異なることがわかった。さらに、外国語を習得するにはその言語で考えること、その言語の文化を理解することが重要だという共通の信念が見られた。

キーワード：日本語学習　イメージ　日系アメリカ人　信念　PAC 分析

１．はじめに

2014 年 3 月から 3 か月間アメリカのカリフォルニア州にある某大学で客員として日本語コースを担当する機会を得た。そこでは初級から上級まで約 300 人ほどの学生が日本語を学んでいる。そんな中、日本語を上手に操る大学院修士課程 1 年生の学生に出会った。また、オフィスアワーになると研究室にやってきて日本語で話し込む大学 4 年生の学生がいた。二人とも日本に行った経験はないと言う。実はその時なぜそのように外国語を流暢に話せるのか、どうしてそこまで熱心になれるのか不思議に感じ、日本語や日本文化、日本語学習に対する彼らの思いや態度を知りたいと思った。一方、カリフォルニア州には多くの日系人が住んでいるが、日系エスニシティという面で日本と関連を持つ彼らの子弟は日本語や日本文化、日本語学習に対してどのようなイメージを持っているのかも併せて調査することにした。その際、量的調査によって多数の学習者のイメージ傾向を調べるのではなく、ある特定の個人に着目し、その個人が抱いているイメージをありのままに捉えようと考えた。

日本語学習者が抱くイメージについて調査した先行研究には、日本人や日本、日本語教師、日本語の方言に対するイメージを調査したものや、成績上位者と下位者の日本語に対するイメージを調査した清田(2008)、韓国人学習の自己評価を調査した八若・池田（2005）、インドネシア人学習者の自己評価を調査した八若（2006）、韓国人学習者の授業観を調査した安・渡辺・内藤(2004)、日系アメリカ人 4 世の日本語学習とエスニック・アイデンティティを調査した中橋(2012)などがあるが、日本語、日本文化、日本語学習全体に対するイメージを調査したものは見当たらない。また、アメリカやブラジルなどの日系人が日本語や日本文化に対して持つ意識を調査したものは多数見受けられるが、日系アメリカ人と非日系人アメリカ人の日本語学習者という枠組みで調査したものは管見では見当たらない。

本研究はアメリカ人日本語学習者は日本語や日本語学習についてどのようなイメージを持っているかを主問とし、個人別イメージ構造を質的に記述することを目的とする。そして、その記述した個人別イメージ構造を比較して、1）各学習者のイメージ構造の特徴、2）日本語学習と日系エスニシティの関連、3）日本語の何が難しいのか、4）言語学習においていかなる信念を抱いているかを副問として考察する。

２．調査方法

社会心理学と臨床心理学の知見を併せ持つ内藤（2002）によって開発された個人別態度構造分析（Personal Attitude Construct Analysis: PAC 分析）の手法を用いて調査を行った。PAC 分析とは、「当該テーマに関する自由連想（アクセス）、連想項目間の類似度評定、類似度距離行列によるクラスター分析、クラスター構造についての被験者のイメージや解釈の聴取、検査者による総合的解釈を通じて、個人ごとの態度・イメージ構造を測定する方法」（内藤 2008: 15）である。

PAC 分析は、調査協力者自身が暗黙裡に所有するイメージに沿って当該テーマに関する変数を書き出していくため、調査協力者自身が持つ本来のイメージ構造を明らかにすることが可能となる。調査者によるインタビューや調査票による調査では、調査者が当該テーマについて抱いているスキーマに基づいて質問が行われるため、たとえ調査協力者がその調査の枠組以外に独自の変数を持っていたとしても、それは表には現れてこない。本研究では、学習者個々人が持つイメージ構造を明らかにすることを目的としているため、上記のような性格を有する PAC 分析を使用することにした。PAC 分析の詳しい内容は内藤（2002）を参照されたい。

本調査では、調査協力者による連想項目間の類似度評定（重要度順の項目で一度のみの評定）から得た類似度距離行列に基づき、HALBAU7 を使用してウォード法でクラスター分析（距離、ウォード法）し、デンドログラム（樹状図）を析出した。

小澤・丸山（2009）は、研究結果を記述する際には、他者が検証したり成果を十分に応用していく道筋を作ったりするために、類似度評定の結果を開示すること、検証可能な程度に

統計処理過程を記述することを提案している。よって、本稿には類似度評定の結果である変数間の距離行列も掲載した。

ところで、日本語学習者に対して、果たして日本語で PAC 分析を実施することに問題がないのかという疑問が残る。問題がないという立場もある（横林 2005、藤田 2007）が、やはり日本語能力が十分でないことから、言いたいことが完全に伝えられないのではないか（坪根・八田 2009）という指摘もされている。特に、日本語能力が十分ではない学習者は、日本語を組み立てるためにワーキング・メモリーを使い果たしてしまい、イメージを想起するための思考力が一時的に低下してしまう恐れがある。また、上級学習者でもイメージした内容をどれだけ完全に伝えているのかは、調査者にも判断がつかない。以上の状況を鑑みて、本調査では使用言語を学習者自身に選ばせることにした。その上で、日本語を使用する調査協力者に対しては、小澤他（2011）に示すとおり、思考を巡らすための十分な時間を与え、過去に体験したことを想起するよう促し、また、調査協力者の用いた言葉が理解できないときは説明を求めることを怠らないように留意した。

2014 年 4 月に、カリフォルニア州の某大学で日本語を学習したことがある大学 3 年生から大学院 1 年生までの 5 人の学生を対象に調査を実施した。調査協力者の詳細情報を次に記す。

２．１　調査協力者

調査協力者の性別、学年、専攻、日本語能力、学習開始年齢、学習期間、エスニシティを表 1 に示す。日本語能力については、全員が上級と自己申告したが、調査時に日本語を使用しなかった学生もいた。そこで、どの言語を使用したかを表に記した。表 2 は調査協力者の家族の主要言語、成長期の家庭の言語、日本の学校教育や補習校の経験、日本滞在経験、現在の日本語使用状況を表している。

表 1　調査協力者一覧

名前（仮名）	性別	学年	専攻/副専攻	日本語能力（注）	学習開始年齢	学習期間	エスニシティ
エリー	女	4 年	生理学/ グローバル研究	カ）日 話）日	0	22 年 1 か月	新日系 2 世
ノア	女	4 年	生物工学/ 日本学	カ）英 話）ほぼ英	18～19	3 年 6 か月	日系 5 世
テリー	男	3 年	日本学	カ）英 話）英	14	7 年 3 か月	日系 4 世
ジャン	男	4 年	日本学	カ）日と英 話）日	14	8 年	イタリア系3世
グレッグ	男	修士 1 年	日本語学	カ）英 話）日	15	7 年 8 か月	アルメニア系 2 世

注　カ）：カードに書いた連想文の言語、話）：話した言語

協力者を個別に見てみよう。まず、エリーは日本人の両親がアメリカで自営業を営んでおり、本人はアメリカ生まれの新日系 2 世である。家族とは日本語で話し、日本語補習校にも通っていた。日本語能力も日本語使用状況も日本人とあまり変わらない。大学では日系学生会会長を務め、大学卒業後は日本で就職が決まっている。

次に、ノアは家庭でも英語を使用する環境で育ち、日本語補習校も日本訪問の経験もない日系 5 世である（母はベトナム人）。大学から日本語学習を始めているが、調査時に使用した言語は主に英語であった。しかし、日本語使用状況を見ると、ほぼ「やりとり」のために日本語を使用していることがわかる。日本関係のサークルに所属している。

テリーも英語環境で育った日系 4 世で、補習校には行かなかったが、14 歳から学校で日本語学習を始めている。大学の専攻は日本学であるが、調査時に使用した言語は英語であった。日本語使用状況はウェブサイトと日本語クラスだけという完全な外国語環境である。日本関係のサークルには所属していない。

次のジャンとグレッグは非日系アメリカ人学生である。二人の共通点は、14 歳ごろから学校で日本語学習を始め、大学で日本学を専攻し、また日本に行ったことがない点である。調査時は二人とも全て日本語で話した。

ジャンの日本語使用状況はほぼ受容型の外国語環境であるが、メールでのやりとりに使用している点や会話の練習のために日本語教師のオフィスアワーをよく利用している点でテリーとは異なる。

グレッグは家庭ではヘリテージ言語であるアルメニア語も使用している新移民 2 世である。日本語使用はエリーと似ており、受容とやり取りの全てに使用している。大学院では日本語学を専攻し、大学では日本語 Teaching Assistant (TA) を、高校では日本語非常勤講師を務めており、将来は日本語教師を目指している。

表 2　調査協力者の言語的背景と日本語使用状況

名前（仮名）	家族の主要言語	成長期の家庭の言語	日本の学校教育/補習校など	日本滞在経験	日本語使用状況
エリー	日本語	日本語、英語	9 年間（私立補習校）	毎夏 2 週間/祖父母訪問	ウェブサイト、漫画、テレビ、音楽、家庭でのやりとり、友達とのやりとり、SNS、日本語クラス
ノア	英語	英語	なし	なし	活動時のやりとり、友達とのやりとり、メール、日本語クラス
テリー	英語	英語	なし	2012 年 2 週間旅行	ウェブサイト、日本語クラス
ジャン	英語	英語	なし	なし	ウェブサイト、漫画、映画・アニメ、ビデオゲーム、音楽、メール、日本語クラス

名前（仮名）	家族の主要言語	成長期の家庭の言語	日本の学校教育/補習校など	日本滞在経験	日本語使用状況
グレッグ	英語、アルメニア語	英語、アルメニア語	なし	なし	新聞・雑誌、書籍、ウェブサイト、テレビ、音楽、活動時のやりとり、友達とのやりとり、SNS、メール、買い物、日本語クラス、リサーチ

２．２　PAC 分析の手続き

まず、連想刺激として、以下のような印刷された文章（英語と日本語）を提示した。

What impressions do you have of Japanese language and culture?　What does Japanese language or Japanese language learning mean to you?　How do you feel about leaning Japanese?　In what way, do you feel learning Japanese language has had an influence on you? Please write down all the impressions that come to your mind regarding the topics above in short phrases or sentences.

あなたは日本語と日本文化についてどんなイメージをもっていますか。あなたにとって、日本語や日本語学習はどんな意味がありますか。あなたは日本語の学習についてどう感じていますか。日本語を習うことによって、あなたはどんな影響を受けたと思いますか。以上のようなことについて、頭に浮かんだことを短い語句や文で書いてください。

次に、イメージを想起順に書いてもらったカードを、重要と感じられる順に並べ替えて、それぞれの項目間の類似度を 7 段階の評定尺度（「非常に近い（1)」から「非常に遠い（7)」まで）に基づいて評定してもらい、類似度距離行列を作成した。そして、その類似度距離行列に基づき、ウォード法でクラスター分析した。

さらに、析出されたデンドログラムを調査協力者に示しながら、クラスターの分断、クラスターごとのイメージや解釈、クラスター間の関係、そして全体のイメージについて調査協力者に語ってもらった。また、個々の連想項目の中で調査者にとって理解しにくいものがあれば補足的に質問し、さらに追加的に質問した場合もある。尚、クラスターの分割にあたっては、まず調査者が分割案を提示し、もし調査協力者が異なる案を申し出たときには、調査協力者による分割を優先し、それに沿ってイメージを語ってもらった。調査協力者の語りは録音し、文字化した。

最後に、各項目のイメージがプラス（＋)、マイナス（－)、どちらとも言えない（0）のいずれに該当するか書いてもらい、調査を終了した。

３．分析結果と考察

ここでは調査協力者の反応や構造を個別に吟味する。まず、調査協力者によるクラスターの解釈を記述した後、その解釈に基づき調査者が調査協力者のイメージ構造を総合的に解釈することにする。

３．１　エリー（新日系２世）の事例

エリーの連想項目、想起順位、重要度順位、及び印象は表 3 のとおりである。重要度順位の上位 3 分の 1 の項目を見ると、「誇りに思う」「自分の事を理解できるようになった」「多くの人と出逢い、会話ができることに気付いた」「もっと日本語（が）できたらなあ」というように、初めは嫌だった日本語学習だが、それによって多くのことが得られたことに気付き、さらなら向上心を抱いているイメージが伝わってくる。全項目の単独イメージを見ると、プラスが 8、マイナスが 3、どちらとも言えないが 1 で、全体的にプラスイメージを強く抱いていることを示唆している。

表 3　エリーの連想項目一覧

重要度順位	連想項目	印象	想起順位
1	初めのころは、補習校が本当にイヤで、でも今になって、きちんと日本語で話せることは私は誇りに思っています	＋	3
2	日本語を学習することで、よりよく自分の事を理解できるようになったと思います	＋	2
3	日本語を話せることでより多くの人と出逢い、会話ができることに気付きました	＋	9
4	もっと日本語（が）できたらなあとよく思います	－	6
5	日本語のイメージは優しさ/心遣い	＋	1
6	両親にとっても感謝しています	＋	4
7	日本語（を）学習することで、日本のテレビ番組の方を好むようになりました	＋	8
8	やっぱり日本語/日本文化はアメリカと違うので、アメリカで育ちながら、日本語を上手く学習するのはとても難しかったです	0	7
9	日本語が上達するたびに、改めて日本の文化を知ることができ、とても嬉しく思っています	＋	5
10	敬語などを習うと、日本は上下関係が厳しいイメージなのかと思います	－	10
11	補習校に行ったことで、たくさんの人と同じ経験を共有でき、昔話を楽しめるようになりました	＋	11
12	裏と表のはっきりとした社会/文化のイメージも持っています	－	12

注　連想項目は調査協力者が書いた語句をそのまま表記する。

また、変数間の距離行列とデンドログラムをそれぞれ表 4 と図 1 に示す。

表 4　エリーの変数間の距離行列

	1)	2)	3)	4)	5)	6)
1)	0.000	1.000	1.000	4.000	3.000	2.000
2)	1.000	0.000	4.000	3.000	2.000	5.000
3)	1.000	4.000	0.000	3.000	5.000	2.000
4)	4.000	3.000	3.000	0.000	5.000	5.000
5)	3.000	2.000	5.000	5.000	0.000	5.000
6)	2.000	5.000	2.000	5.000	5.000	0.000
7)	3.000	3.000	6.000	6.000	5.000	5.000
8)	2.000	2.000	2.000	1.000	3.000	2.000
9)	3.000	3.000	3.000	3.000	2.000	2.000
10)	6.000	3.000	5.000	2.000	3.000	2.000
11)	5.000	6.000	3.000	6.000	6.000	3.000
12)	6.000	6.000	6.000	2.000	6.000	6.000

	7)	8)	9)	10)	11)	12)
1)	3.000	2.000	3.000	6.000	5.000	6.000
2)	3.000	2.000	3.000	3.000	6.000	6.000
3)	6.000	2.000	3.000	5.000	3.000	6.000
4)	6.000	1.000	3.000	2.000	6.000	2.000
5)	5.000	3.000	2.000	3.000	6.000	6.000
6)	5.000	2.000	2.000	2.000	3.000	6.000
7)	0.000	3.000	2.000	6.000	5.000	6.000
8)	3.000	0.000	3.000	3.000	2.000	5.000
9)	2.000	3.000	0.000	5.000	5.000	6.000
10)	6.000	3.000	5.000	0.000	7.000	3.000
11)	5.000	2.000	5.000	7.000	0.000	7.000
12)	6.000	5.000	6.000	3.000	7.000	0.000

（注）平方距離の平方根を表示。

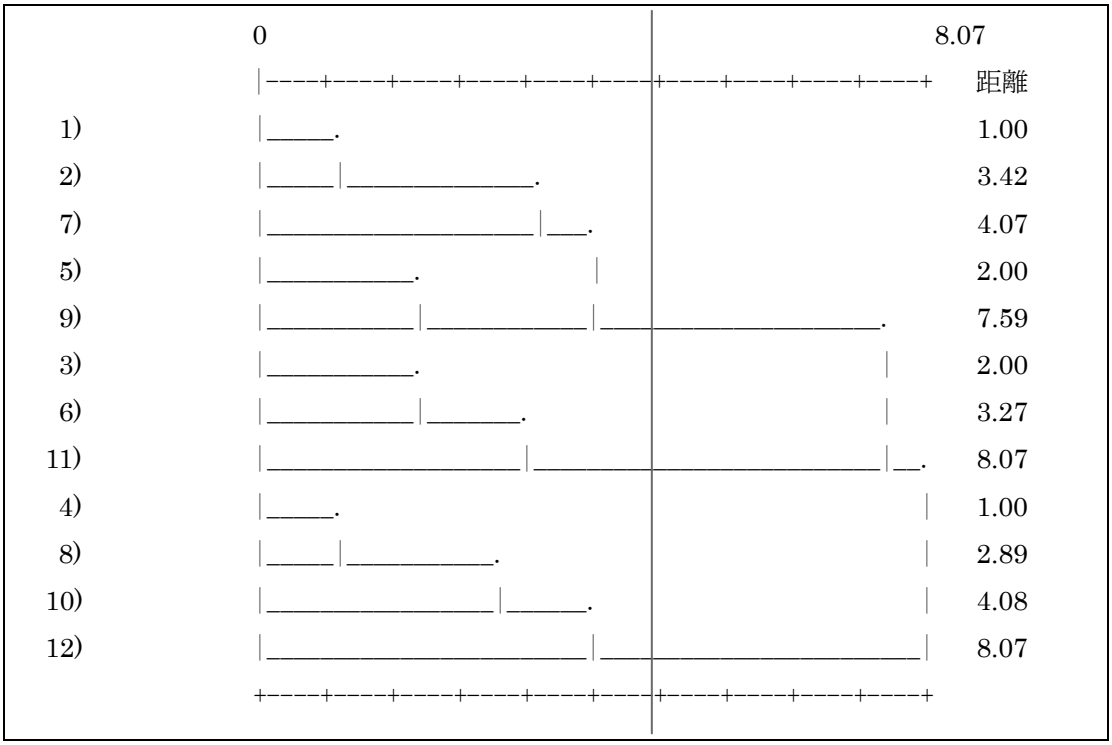

図 1　エリーのデンドログラム

クラスターの数は、図中の垂直線の距離で分断し、3 分割とした。その結果、エリーのクラスター別連想項目は次のとおりとなる。

クラスター1

1　初めのころは、補習校が本当にイヤで、でも今になって、きちんと日本語で話せることは私は誇りに思っています

2　日本語を学習することで、よりよく自分の事を理解できるようになったと思います

7　日本語（を）学習することで、日本のテレビ番組の方を好むようになりました

5　日本語のイメージは優しさ/心遣い

9　日本語が上達するたびに、改めて日本の文化を知ることができ、とても嬉しく思っています

クラスター2

3　日本語を話せることでより多くの人と出逢い、会話ができることに気付きました

6　両親にとっても感謝しています

11 補習校に行ったことで、たくさんの人と同じ経験を共有でき、昔話を楽しめるようになりました

クラスター3

4　もっと日本語（が）できたらなあとよく思います

8　やっぱり日本語/日本文化はアメリカと違うので、アメリカで育ちながら、日本語を上手く学習するのはとても難しかったです

10 敬語などを習うと、日本は上下関係が厳しいイメージなのかと思います

12 裏と表のはっきりとした社会/文化のイメージも持っています

３．１．１　調査協力者によるクラスターの解釈

調査協力者の解釈は次のとおりである。尚、解釈は必ずしも調査協力者の語った言葉通りではなく、調査者が誤用を訂正したり、内容を短くまとめたりした部分もある。また、英語で語った場合は、日本語に訳して記載した。さらに、各クラスターがどのようなイメージでまとまっているかタイトルを付けてもらった。

クラスター1：　「日本人の私」

自分の性格の中で重要としている部分ですかね。優しさとか心遣いがすごい重要だと自分で思ってるんで。人と話すときも優しくいようとか、ちゃんと他の人の立場に立っていようとか。だから、日本語の中でそういう自分を見つけられたのかなと思ったり。そういうグループかなと。それと、もっと大きくすると、自分の中での日本の文化とか、自分の中での日本人に一番近い。日本語を話せることによって、その自分に近づけたということですか。だから、日本のテレビとかもよく見るようになったり、音楽も聞くようになったり。日本の文化とか日本の人とかも、もうちょっと近くになったのかなと思います。高校2 年生までは、ずっとどっぷりアメリカでした。アメリカのテレビ見て、アメリカの音楽聞いて。両親に何言ってるかわかんないって言われても、結構英語で話したりしてたけど、今はほとんどずっと日本語の番組を見て、両親とずっと日本語でしゃべってますし。その時点で、初めて日本の、テレビ番組、あの、音楽番組なんですけど、それを見て、ああ、なんか好きだなと思って、それから始まって、どんどんと。自分がずっと日本語勉強してきたから、こういうもの楽しめるようになったし、だからもっと日本語ができるように頑張ろうとか、そういうなんかプラスのサイクルになっていった気がします。その高校生から。補習校続けてこられたのは両親のおかげだから。私はほんとに嫌だったけど、「絶対よかったなと思う日が来るから、その日まで頑張りなさい」ってよくお母さんが言ってたんで。お母さんは泣いてる私を車に入れて、すごい苦労してたんだと思いますけど。

クラスター2：　「出逢い」

他の人との関係とかですかね。昔補習校に一緒に行ってた子と、久々に会って、よくあんなことしてたなって話もできるし。今、日系学生会で活動してる中でも、日本語の方が

話しやすいっていう日系人にも会うんで、その人たちともちゃんと話せる自分がいるんで。それもなんか、ああ、いいなあ、日本語を勉強してきたから、こういう人たちとも話せるようになったんだなあと思って。両親に対して感謝が芽生えたのも、やっぱりこうやって人と出会って、話せたことからたぶん気づいたことなんで。あと、他の学校にただ遊びに行ったときに、なんかすごい見覚えのある人が歩いてたり。ちょっと待って、見たことあるって言って、実はいっしょに補習校に行ってたんだよとか。そういうのでなんか、新しい友情っていうんじゃないけど、なんかそういう関係が生まれるっていうことだと思います。

クラスター3：　「苦難」

日本とアメリカとの違いで、その中でなんか、日本語を習ってる難しさとか、苦労した思いというか、なんか難しいという思いですかね。やっぱり英語と比べてしまうんで、英語だったら、結構自分の思ってることスラスラ言えるんですけど、やっぱり日本語だと、言葉とかも知らないんで、ちょっと限られちゃうんですよ。なんか、年齢相当の日本語をしゃべれないっていうイメージですかね。もうちょっと語彙力広げてみたり、いろんな工夫して話せたらなと思うんですけど。けっこうストレートにしか言うことができないんで、なんかそういのもできたらなあっていう。やっぱり、日本の敬語とか、表と裏とかそういうのが自分の中でわからないところなんで、それがなんか、人との距離の取り方がわからないとか、それのことですかね。アメリカ人はわかるんです。あ、この人絶対電話来ないなってわかるんですけど、日本の人、わかんないんですよね。たぶんまだ経験がないんで。私これホントに電話かけて連絡取った方がいいのかな、ただ言ってるだけなのかって、すごい悩んじゃうんで。アメリカでも結構なんか昔の友達とか、小学生の友達とかに会って、ああ久しぶり、今度ご飯食べようよって言われるんだけど、絶対ないなってわかってるんで、うん、わかった、じゃあ後で連絡するねとか、私もちゃんと乗れるんですけど、なんか日本語だとそこんとこがちょっと戸惑っちゃうんですよ。

クラスター間の比較と全体について：

1 と 2 は日本語を習ってよかったこととか、プラスになったことでつながっている気がします。それに比べて、3 はいまだにまだわからないみたいな、なんかまだ自分の中でわかってないというか。今となって補習校振り返ると、もうちょっと勉強とか頑張ってれば、なんかもっとちゃんとできたのかなって、そういう部分がなんか最後のグループに出てる気がします。2 と 3 のつながりはたぶん他の人とのコミュニケーションの中で感じることだと思いますけど、やっぱり、2 はいい方向で、最後の方がちょっと難しい部分かな。

たくさんわかんないことや難しいことがあるんですけど、それでもやっぱり、ずっと日本語を勉強しててよかったなっていうイメージですかね、全部で。＜勉強しててよかったなというのは？（調査者の間）＞やっぱり私外見アメリカ人じゃないんで、それでなんか外

見とちゃんと内面があってる感じがしてる。自分ですごい納得できるんで、だから自分の中でもすごい安定感というか、何か自分でも、ああよかったなと思える感じですかね。なんか日本に行って、こんな感じなんで、やっぱり日本語しゃべれると思われるんで、それにちゃんと答えられる自分がいて、でも、アメリカでずっと育ってるんで、ここに来てもちゃんと英語がしゃべれてる。自分と外の間ではちゃんと、期待通りいる自分がいてよかったなあと。

３．１．２　調査協力者についての総合的解釈

子どもの時は親に無理やり日本語補習校に連れて行かれ、なぜ日本語を学習するのかもわからずに泣きながら勉強していた。だが、高校 2 年生ごろに初めて見た日本の音楽テレビ番組をきっかけに、日本の音楽に興味を持ち始め、それまでの苦労を肯定的に受容できるようになるとともに、自分の興味のためにもっと日本語学習を頑張ろうという「プラスのサイクル」が出来上がった。また、以前の補習校仲間と昔話に花を咲かせ、いわば戦友といった新しい友情が芽生えたり、もし日本語が話せなかったら得ることができなかった多くの人たちとの関係を築くこともできた。このような人との出会いを経験することによって、「絶対よかったなと思う日が来るから」と言って補習校に通わせた親に対して感謝の気持ちを抱くようになった。しかし、日本語によるコミュニケーションには困難を感じることも多い。特に、語彙不足により年齢相応の表現ができない、英語のようにストレートな言い方をしてしまう、また敬語や言葉の表と裏の意味がわからず、「人との距離の取り方」が難しいなどと感じている。そして、「もっと補習校で頑張っていれば」と後悔の念を抱いている。

調査協力者が命名したクラスターのタイトルは、それぞれ「日本人の私」「出逢い」「苦難」である。ここから、わからないことや難しいことなどの「苦難」が依然としてあるが、日本語学習を通して日本文化を知り、「日本人の私」に近づけたこと、また補習校を含む日本語学習によって多くの「出逢い」を経験できたことなどから、やっぱり日本語を勉強してきてよかったというイメージを持っていると言えよう。第一クラスターの 9 番の項目、第二クラスターの 11 番の項目、第三クラスターの 12 番の項目が最終的に結合されているのは、こうした推論を裏付けるものと考えられよう。

ここで、「日本人の私」について補足しておく。調査協力者は日本語学習を通して人に対する「優しさ」や「心遣い」の大切さに気付き、それを自分の性格の重要な部分と位置付けている。日本語が話せる自分とそこから学んだ日本的な文化が「自分の中の日本人」の部分で、そこに近づけたことによって、日本人的な「外見とちゃんと内面が合ってる感じ」がして、「ああよかったなあ」と納得し安心できた。この「日本人の私」の構築は、日本では日本語で、アメリカでは英語で話せるということも意味し、「自分と外の間ではちゃんと期待通りいる自分がいてよかったなあと」という感情をもたらしている。

３．２　ノア（日系５世）の事例

ノアの連想項目、想起順位、重要度順位、及び印象は表 5 のとおりである。重要度順位の上位 3 分の 1 の項目は、「本当にいい留学生の友人ができた」「人間が豊かになり、自分の文化と結び付けてくれた」「1 対 1 の会話練習が大事だ」であるが、日本語学習によって自分の世界は広がったが、うまく話せないのは対話型会話練習が少ないからだと感じていることが伝わってくる。連想項目の単独イメージは、プラスが 5、マイナスが 2、どちらとも言えないが 1 であり、どちらかというと肯定的受容を示唆している。

表 5　ノアの連想項目一覧

重要度順位	連想項目	印象	想起順位
1	Japanese has helped me make really good international friends	＋	5
2	Japanese helps me be well-rounded and connect to my culture	＋	8
3	It would be better to have more 1:1 practice when learning Japanese	－	4
4	Learning Japanese is fun and useful	＋	1
5	Japanese language is challenging	0	2
6	Japanese culture is beautiful and also logical	＋	3
7	Japanese has a lot of slang	＋	7
8	Sometimes Japanese can be too superficial	－	6

注　連想項目は調査協力者が書いた語句をそのまま表記する。

また、変数間の距離行列とデンドログラムをそれぞれ表 6 と図 2 に示す。

表 6　ノアの変数間の距離行列

	1)	2)	3)	4)	5)	6)
1)	0.000	2.000	5.000	2.000	7.000	5.000
2)	2.000	0.000	5.000	2.000	3.000	1.000
3)	5.000	5.000	0.000	3.000	2.000	3.000
4)	2.000	2.000	3.000	0.000	2.000	5.000
5)	7.000	3.000	2.000	2.000	0.000	6.000
6)	5.000	1.000	3.000	5.000	6.000	0.000
7)	6.000	4.000	2.000	3.000	3.000	3.000
8)	7.000	6.000	6.000	4.000	6.000	5.000

	7)	8)
1)	6.000	7.000
2)	4.000	6.000
3)	2.000	6.000
4)	3.000	4.000
5)	3.000	6.000
6)	3.000	5.000
7)	0.000	3.000
8)	3.000	0.000

（注）平方距離の平方根を表示。

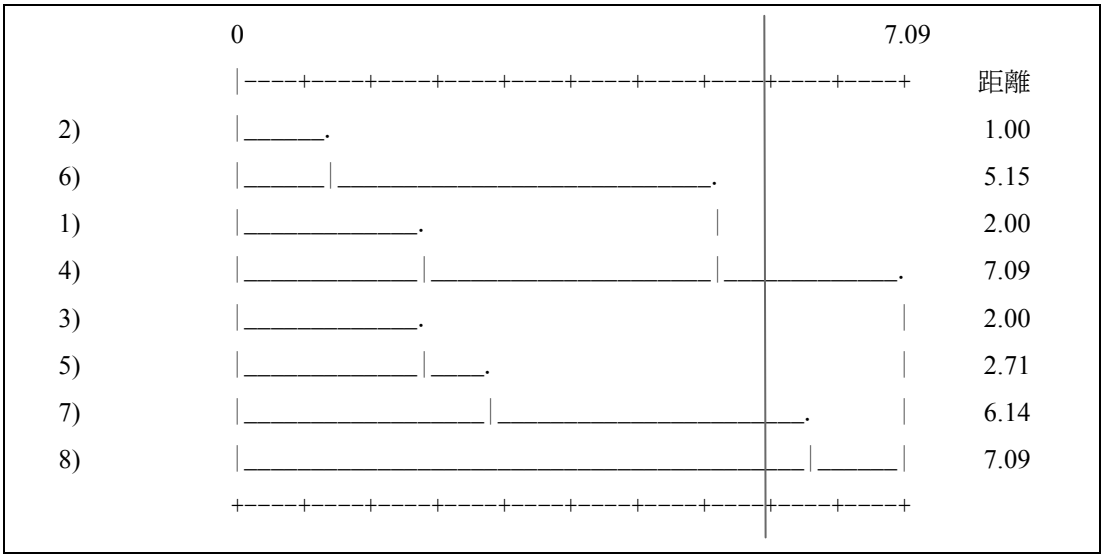

図 2　ノアのデンドログラム

クラスターの数は、図中の垂直線の距離で分断し、3 分割とした。その結果、ノアのクラスター別連想項目は次のとおりとなる。

クラスター1

2. Japanese helps me be well-rounded and connect to my culture.
6. Japanese culture is beautiful and also logical.
1. Japanese has helped me make really good international friends.
4. Learning Japanese is fun and useful.

クラスター2

3. It would be better to have more 1:1 practice when learning Japanese.
5. Japanese language is challenging.
7. Japanese has a lot of slang.

クラスター3

8. Sometimes Japanese can be too superficial.

３．２．１　調査協力者によるクラスターの解釈

クラスター1：　「日本語を勉強する理由」

全部、日本文化と日本語に関する「すること」です。あの、culture については、いろいろなクラブで活躍しているから、私にとって culture はすることです。たとえば、あるクラブでは日本語と英語の言葉について勉強するし、日本舞踊のグループにも入ってやってます。大学 2 年生の時、友達がしていたし、着物好きなので。だいたい伝統的な文化に興味があります。あまり、漫画とかアニメとか興味ない。古い文化に興味があります。おもしろい。たぶん、中学生の時、日系人が英語で書いた昔の時代の小説を読んだから。日本文化はハワイの自分の文化に似ていて、好きです。例えば人に対する接し方とか。他の人への思いやりがあります。それに、日本文化は一人よりみんなが集まっているのが好きですが、それも自分の家族の文化に似ていて、納得できます。ハワイの文化は、日本とアメリカとハワイの伝統が混ざってるから、日本の文化がわかったら、ハワイ文化がもっとわかります。日本語を勉強したおかげで、たくさん日本人留学生の友達ができました。たいてい友達は日本語で話して、私は英語で答えます。日本語で話したいけど、英語の方が便利だから。本当はもっと話せたら楽しいだろうなあと思います。

クラスター2：　「Challenging（大変なこと）」

全部、私が日本語を勉強するときのチャレンジ（大変なこと）だから、1 つのグループです。たとえば、授業ではあまり 1 対 1 の会話練習がないから。それがあったらもっと話す時間があっていいなあと。会話パートナーはいますけど、なかなか会えないし、相手が日本人だから私がわからない単語を使うので。もし日本語クラスの同級生だったら、同じレベルなのでいいです。そんな授業はあることはありますが、文法のための形式的な会話で、自分が何と言って、相手が何と答えるのか初めからわかっているので、自由な会話じゃない。日本語のスラングはおもしろい。コンビニ、スタバ、ファミマ。そのスラングの作り方は面白いと思います。クラブで日本人が新しい言葉を教えてくれるけど、いっぱいあるし、毎年変わるし、ついていけない。時々、副専攻の日本学をやめようと思った。たとえば、標準的な日本語が話せたとしても、日本に行けば知らない言葉がたくさんあって、

どっちみちわからないので。

クラスター3：　「高コンテキスト言語はややこしい」

Superficial じゃないけど、どう言ったらいいかわかりません。あの、日本語は高コンテキスト言語だから、それに慣れていないと難しい。日本語の勉強を始めたころは難しかった。たとえば、日本語は代名詞をあまり使わないけど、英語ではよく使う。「それ」と「あれ」の違いもちょっと難しい。「それ」は遠いもの、「あれ」はもっと遠いもの。でも、どこが境界線？　それに、自分が知っていること、相手が知っていること、両方とも知っていること、といったこともよくわかりません。 日本人にとったら論理的でわかりやすいと思います。日本人の考え方があるから。でもアメリカ人の考え方では理解できない。だから、考え方の違いです。たとえば、日本のウチとソトのコンセプトはややこしいです。自分の文化とは違うので実際にそういうふうに言うのは難しい。ハワイにもそんなウチとソトの考え（自分がどこに所属しているかという点で）はあると思いますが、日本語と違って、自分の娘のことをソトの人に「娘は本当にいい子なんですよ」などと言います。言葉のやりとりの仕方が違うんです。だから、日本語のように言うのは大変です。

クラスター間の比較と全体について：

クラスター1 と 2 は日本学を副専攻にしようと決めたから学べたことです。違いは 1 はそうしようと決めた理由で、2 は困難なことです。1 と 3 の違いは、1 は好きなことだけど、3 は嫌いなことです。嫌いというより、フラストレーションです。自分の自然な考え方じゃないから、理解するのが難しいんです。でも、それも日本文化の一部なので、もし日本文化を学びたいなら、その部分も受け入れないといけないと思う。クラスター2 と 3 は両方とも困難なことですが、違う点は、2 は簡単に勉強できるけど、3 はとっても難しいということです。

いいことも難しいこともあるけど、日本語学習は全体としては自分の人生にとっていい面を多く持っていて、だから大学でいい経験をさせてくれたんだと思います。日本語というもう一つの技能を持てたこと、いろいろな人と会えたこと、様々な経験ができたことなどは日本語を勉強したからできたことなので、日本語学習は私を人間として成長させてくれたと思います。

補足的質問：

＜日本文化は論理的というのは？＞ある行動や儀式やシンボルの陰には必ず理由があります。その隠れた理由を聞くのが好きだし、おもしろいです。それに日本語の言い回しにもなぜそう言うのか理由があります。そんな話を聞くと、納得がいくので好きです。例えば、なんで日本は天皇を象徴とする国かとか、なんで七夕祭りがあるのかとか。アメリカでは、

たとえば、聖パトリック祭があるけど、なんでアイルランドの祭りを祝うのかわかりません。

３．２．２　調査協力者についての総合的解釈

日本語の学習を始めたのは大学 2 年からだが、中学や高校でも日本の時代小説を英語で読んだり、日本人の友人がいたりしたので、自文化の中の日本という部分を意識していた。だが、大学で日本語学習を始めてから、日本語関係のクラブや日本舞踊クラブにも加わり、それがきっかけで友人が増え、その友人たちと日本語でコミュニケーションしたり、日本の伝統文化を実践したりするようになった。日本語学習は楽しく、役立つものというイメージを抱くようになったのは、こうした生き生きとした活動が背景にあるからだろう。日本語も日本文化も知識ではなく実際に「すること」だと述べているように、それらの実践（例えば、人との接し方や人への思いやり、またみんなが一緒に集まることなど）を通して、日本文化の美しさやハワイの自文化との類似点を見出し、ハワイの文化をより深く理解できるようになったと感じている。その一方で、日本語の学習には困難を感じており、日本学の副専攻をやめようと思ったこともある。自分がうまく話せないのは授業で 1 対 1 の自由会話練習がないからだと日本語授業のやり方を批判的に捉え、スラングの多さに対しても困難を感じている。しかし、最も難しい点は日本語が高コンテキスト言語であり、例えば、代名詞などを明示しないからだという認識を持っている。英語ではすべての文法要素を表現するので、アメリカ人の考え方ではなくて日本人の考え方を持たないと、理解するのが難しいと考えている。また、ウチ・ソトのように一見同じような概念がハワイにもあるように思われるが、その概念における言語表現の現れ方には大きな相違があることも、日本語や日本文化を実践する上での難しさの一つと捉えている。

調査協力者は、クラスター3 について自分の文化と違う考え方だから理解するのは難しいが、「それも日本文化の一部なので、もし日本文化を学びたいなら、その部分も受け入れないといけない」と困難さも引き受けた上で、総合的なイメージとしては「日本語学習は私を人間として成長させてくれた」というポジティブな受け取り方をしている。連想項目 4 と 8 が最終的な結合をもたらしているのは、上記のような 2 極の対立イメージを象徴しているものと解釈できよう。

３．３　テリー（日系 4 世）の事例

テリーの連想項目、想起順位、重要度順位、及び印象は表 7 のとおりである。重要度順位の上位 3 分の 1 の項目は、「言語を理解するには文化を理解することが必要で、また逆も然り」「日本や日本文化を理解するには日本語の理解が不可欠」「日本語学習は暗示的」「概念の理解よりそれを実際に応用する方が難しい」である。これらの項目から、日本や日本文化を理解するには日本語の理解が不可欠だが、日本語は文法などの知識を知っていても実際に使うことが難しいと感じていることが伝わってくる。項目別のイメージは、プラスが 8、マイナ

スが 2、どちらとも言えないが 1 であり、全体としてはプラスイメージが強いことを示唆している。

表 7　テリーの連想項目一覧

重要度順　位	連想項目	印象	想起順位
1	Understanding language requires understanding culture and vice versa	＋	3
2	One cannot understand Japan as a nation or a culture without understanding the Japanese language	＋	9
3	Learning Japanese is very nuanced and implicit	＋	4
4	Conceptual understanding is much easier to obtain than being able to practically apply those concepts	－	10
5	Both the language and culture of Japan are difficult to fully understand, even with years of study	－	8
6	Japanese is a lake with a simple, calm surface and complexity beneath	＋	2
7	Learning the language and culture of Japan is related to globalization and multi-culturalism	＋	11
8	The culture and language are bound by rules and customs that are rarely broken	＋	5
9	The Japanese language and culture expand perceptions of worldviews	＋	6
10	Japanese is a fluid language	＋	7
11	An endless journey of study	0	1

注　連想項目は調査協力者が書いた語句をそのまま表記する。

また、変数間の距離行列とデンドログラムをそれぞれ表 8 と図 3 に示す。

表 8　テリーの変数間の距離行列

	1)	2)	3)	4)	5)	6)
1)	0.000	2.000	2.000	2.000	1.000	3.000
2)	2.000	0.000	2.000	2.000	2.000	2.000
3)	2.000	2.000	0.000	1.000	1.000	1.000
4)	2.000	2.000	1.000	0.000	2.000	3.000
5)	1.000	2.000	1.000	2.000	0.000	1.000
6)	3.000	2.000	1.000	3.000	1.000	0.000
7)	5.000	1.000	4.000	3.000	3.000	6.000
8)	3.000	3.000	3.000	2.000	3.000	2.000
9)	3.000	3.000	3.000	4.000	3.000	3.000
10)	5.000	5.000	3.000	4.000	3.000	5.000
11)	2.000	3.000	2.000	1.000	1.000	2.000

	7)	8)	9)	10)	11)
1)	5.000	3.000	3.000	5.000	2.000
2)	1.000	3.000	3.000	5.000	3.000
3)	4.000	3.000	3.000	3.000	2.000
4)	3.000	2.000	4.000	4.000	1.000
5)	3.000	3.000	3.000	3.000	1.000
6)	6.000	2.000	3.000	5.000	2.000
7)	0.000	5.000	1.000	4.000	4.000
8)	5.000	0.000	3.000	3.000	2.000
9)	1.000	3.000	0.000	4.000	3.000
10)	4.000	3.000	4.000	0.000	4.000
11)	4.000	2.000	3.000	4.000	0.000

（注）平方距離の平方根を表示。

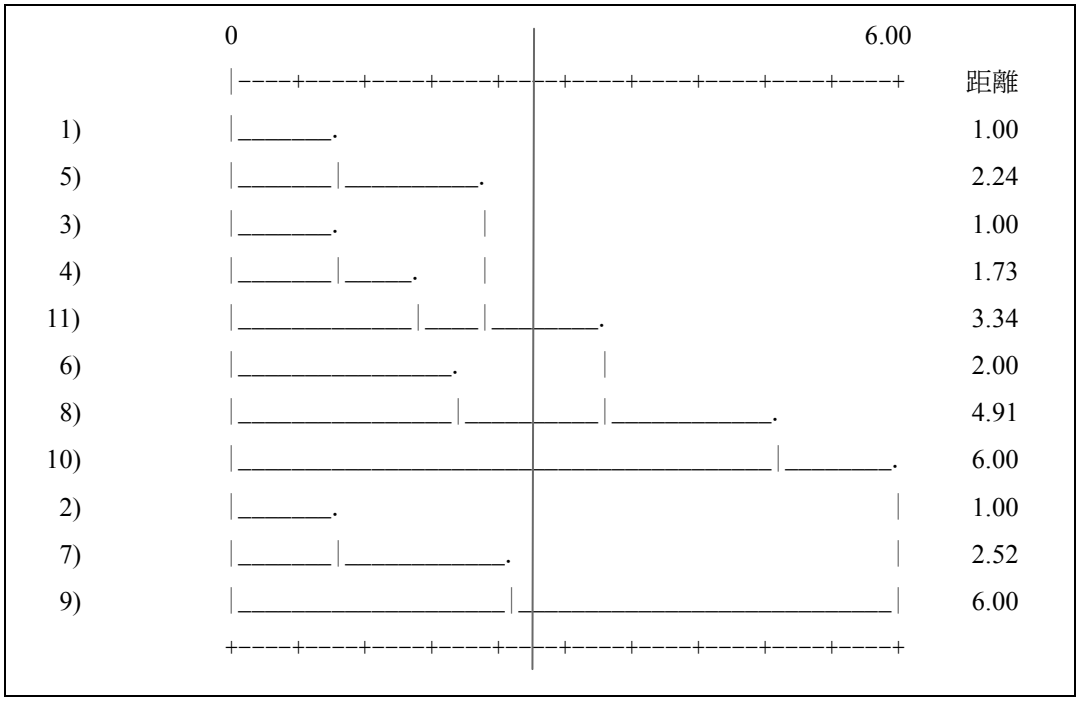

図 3　テリーのデンドログラム

図中の垂直線の距離で分断したが、この分断方法によると項目 10 は 1 つのクラスターとなり、4 分割となる。しかし、調査協力者の考えに従い、項目 10 をクラスター2 に組み込み、全体を 3 つのクラスターに分割した。その結果、テリーのクラスター別連想項目は次のとおりとなる。

クラスター1

1. Understanding language requires understanding culture and vice versa.
5. Both the language and culture of Japan are difficult to fully understand, even with years of study.
3. Learning Japanese is very nuanced and implicit.
4. Conceptual understanding is much easier to obtain than being able to practically apply those concepts.
11. An endless journey of study.

クラスター2

6. Japanese is a lake with a simple, calm surface and complexity beneath.
8. The culture and language are bound by rules and customs that are rarely broken.
10. Japanese is a fluid language.

クラスター3

2. One cannot understand Japan as a nation or a culture without understanding the Japanese language.
7. Learning the language and culture of Japan is related to globalization and multi-culturalism.
9. The Japanese language and culture expand perceptions of worldviews.

３．３．１　調査協力者によるクラスターの解釈

クラスター1：「日本語習得の難しさ」

このグループ全体は項目 11 の「endless journey of study（終わりのない学習の旅）」ということでまとまっている。中学から日本語を始めて、大学に入って本格的に取り組み始めたけどまだ上手にならない。日本語、一般的に言葉を完全に操れるようになるには本当に時間がかかる。自分の経験から言うと、文法や語彙の概念的な理解はそれほど難しくないが、その概念を日常会話に応用するのはとても難しい。自分はよく文法を間違って使っていることに気付くが、それは英語では文法的に意味が通るのに、日本語母語話者には不自然に聞こえるようなものである。難しいと思うもう一つの理由は、項目 3 の日本語の間接性にある。ほのめかしたり間接的に言ったりする。それは英語の観点からいうと非常にわかりにくい。なぜなら、英語はもっと直接的な表現をするので。日本語や日本文化を自分の国の考えをもとに解釈したら、それは本当に日本語や日本文化を理解したことにならない。それを本当に理解するには、自分の認知の仕方を日本の認知の仕方にシフトしなければならない。その日本の認知の仕方を習得するために日本語や日本文化を勉強するのであるが、完全に理解するには何年も時間がかかる。

項目 1 で言ったように、言葉の理解には文化の理解が必要。なぜなら二つはコインの表と裏だから。日本語を勉強する時には言葉だけを勉強することはできない。文化も一緒に勉強しなければならない。なぜなら、もし文化を理解したら、ある面で言葉の意味が納得いくから。また、言語がわかると、文化も理解できる。例えば、依頼とか断りなどの日本語表現では、単に「行けません」などと言えない。クッション言葉を言わなければならない。直接的な表現でなく、暗示的に表現することで、明らかな断りに見えないようにする。その理由は文化的な面を理解しないとわからない。また、敬語。もし日本の社会的階層について知っていれば、なぜ尊敬語や謙譲語がそんなに大事かがわかる。一方、もし敬語が使われる文化的な背景知識がないと、なぜ敬語にそんな異なったポライトネスのレベルがあるかわからないだろう。だから、もしそのような文化を勉強しないと、日本語は筋が通らなくなる。

クラスター2：　「学習前の日本語の印象」

このグループは日本語学習を本格的に始める前に感じた日本語に対するイメージでまと

まっている。日本語は音が滑らかで、構造も一定の法則に従っているので、とても単純でわかりやすいように見えた。でも、勉強するうち、日本語の細部には小さいけどとても重要なことがあることに気付いたとき、日本語の複雑さがはっきりわかった。日本語の勉強を始める前、自分はもうある程度日本の文化を知っていると思っていた。両親や祖父母が見せてくれたものや日本のテレビ番組や様々なメディアなどを見て。で、日本語の勉強を始めてから、自分が考えていた日本の文化がステレオタイプのもので、日本文化全体を示すものではないことがわかった。だから、もし日本語を勉強しなかったら、このような理解を得ることはできなかっただろう。文化だけでなく、日本の国の理解も。だんだん勉強していくうちに、日本語の複雑さに遭遇し、もっと面白くなってきた。

クラスター3：　「言語学習の重要性」

日本語や日本文化を勉強すると日本人の考え方などがわかるようになる。自分個人のことだが、日本語を勉強して、間接性という面について、丁寧に断るなどということだが、以前はそのようにすることは考えもしなかったが、日本語を勉強して自分の世界観、つまりどのように考えて行動するかなどが広がった。だから今は直接的表現をしないようにしたり、その人との関係を考えたりできるようになった。日本文化がちょっと理解できるようになった。それは、単に日本文化に限らず、似たような文化についても理解が深まった。もし文化を知らなければ、まさに文化としての国を理解できるとは限らない。世界がグローバル化して、他の文化や世界観を理解することの必要性と重要性が増している。日本語を勉強することで、いろいろな世界観に対する認識を広げることができたと思う。

クラスター間の比較と全体について：

グループ 2 は、日本語の学習に本格的に取り組む前に、最初に感じた日本語の印象や見方を表している。グループ 1 は、だいたいは日本語学習の経験に対するイメージである。要するに、日本語学習は最初は簡単に見えるが、日本語の持つニュアンスや性格から、もっと勉強が必要になってくる。日本語学習で遭遇した日本語の複雑さは、まさに他の文化や世界観に対する自分の認識を広げてくれたものである。日本語に対する最初の認識はステレオタイプ的で不正確だったが、グループ 1 に関する経験がそれを変えてくれた。国同士のコミュニケーションや関係は、グループ 3 の理由でますます重要になっている。そのことは日本語学習がいかに有益であるかも証明している。

日本語が流暢に話せるレベルに達するためには熱心に学習する必要があり、日本語はそのような複雑な言語だと言えよう。ある意味では、本当に日本語を学ぼうと努力する人だけが、その勉強に時間を使うべきだと感じる。最後までやろうとか真剣にやろうとしないで勉強を始めるのは時間の無駄である。

われわれは日本はどういう国か、文化は、言語はどうか、などの先入観を持っているけ

ど、言葉の学習を通してある程度正しく文化を理解し、また文化の学習を通して日本語を理解することができる。その時、自分が持っているパラダイムとは違うその文化独自のパラダイムを学ぶことになる。それを完全に理解するまでにはかなりの時間がかかるが、価値のあることだと思う。なぜなら自分とは違うパラダイムを学ぶことは世界のグローバル化、グローバル化社会をつくるためにとっても重要なことだから。

補足質問：
＜A fluid language とは？＞　日本語はドイツ語、中国語などと比べると音がなめらかで、また構造的で、理解しやすい。

３．３．２　調査協力者についての総合的解釈

家庭でも補習校でも日本語を習ったことはなく、アニメやビデオゲームによってはじめて日本語にふれた。中学校で日本語を習い始めるが、その頃の日本語に対するイメージは、「fluid（滑らかで構造的）」「simple（簡単）」「calm（静かで問題がない）」であり、その後に遭遇する日本語の難しさは想像していなかった。日本文化についてもステレオタイプ的なイメージしかもっていなかった。日本語学習が進んでいくうちに、それが「endless journey」だと感じることになる。語彙や文法の概念がわかっても実際に使用すると不自然な表現になってしまう。そして英語的な発想で日本語を組み立てることの間違いに気付く。日本語の間接的表現なども自分の認知の仕方、つまり英語的な認知でそれを理解しようとしても難しく、日本語的なパラダイムにシフトする必要があるという認識を持つ。また、日本語と日本文化は「コインの表と裏」であり、どちらか一方だけを理解しようとしてもそれは不完全な理解に終わってしまう。日本式の断り方も敬語の使い方も日本の人間社会の構図と深く結びついているからだと考える。そして、グローバル化社会という視点から、日本語や日本文化の勉強を通して得た以上のような認識を持つことの重要性を感じるようになった。つまり、その国のことをよく知るためには自国の文化に基づく価値観（自文化中心主義）からその国独自の価値観（他文化中心主義）へとパラダイムをシフトすることが重要だということを日本語学習の経験を通して確信した。クラスター2 の項目 10 とクラスター3 の項目 9 が最終的に結合していることは、調査協力者の日本語学習に対するイメージが、学習を始める前のステレオタイプ的なイメージから、学習を通して広がった世界観へと大きくイメージが変容したことを暗示している。

クラスターのタイトルからは、「学習を始める前の印象」から始まって、「日本語学習の困難さ」を経験し、最後は世界的視野に立って「言語学習の重要性」を認識するというように、一言語の学習という視点からグローバル化社会の視点へと、言語学習に対する認識が拡大しているイメージが読み取れる。「最後までやろうとか真剣にやろうとしないで（日本語の）勉強を始めるのは時間の無駄」だと言っていることからは、日本語や日本文化の

勉強に打ち込んできて、やっと何か光のようなものを見つけた人の心境が感じられる。

３．４　ジャン（イタリア系３世）の事例

ジャンの連想項目、想起順位、重要度順位、及び印象は表９のとおりである。重要度順位の上位３分の１の項目は、「英語と違っているから面白い」「英語と日本語はどちらもいい点がある」「英語で説明できないところが一番おもしろい」「日本語のよくない所」である。これらの項目から、日本語のいい点と悪い点を英語との比較によって捉えていることが伝わってくる。項目別のイメージは、プラスが５、マイナスが３、どちらとも言えないが４であり、プラスイメージとマイナスイメージが均衡ないしは葛藤していることを示唆する。

表９　ジャンの連想項目一覧

重要度順　位	連想項目	印象	想起順位
1	日本語と英語はとても違っているこそ日本語の学習は面白いと思います	＋	1
2	時々、英語のより日本語のことば、ひょうげん、言い方などの方はいいとかうつくしいと思いますが、時々ぎゃくの方だと思うこともあります	0	6
3	英語で説明しにくいことや説明できないことは日本語の一番面白いの部分だと思います	0	3
4	日本語であまり「いいえ」や「好き」や「きらい」などのことばを言わないことはちょっとよくないと思います	－	8
5	いっぱんてきに日本語は他の勉強したことよりも面白くて楽しいです	＋	10
6	日本語の学習でふつうのと違う考え方を手に入れます	＋	2
7	The biggest improvement I had was after learning how to think in Japanese/a Japanese context rather than think in English and try to translate those thoughts	＋	5
8	しんせきや友人などのぜんぜん日本語がわからない人に日本語のことについて、特に英語にないことを教えてみるのは楽しみます	0	12
9	日本語で話す時、よく失礼なことを言ってしまうしんぱいがあります	－	7
10	もちろんちょっとむずかしいかもしれないけど、英語より日本語の方は書くのが楽しいと思います	＋	9
11	日本語の一番むずかしいのはれいぎについてのことだと思います。	0	4
12	From what I’ve seen/heard, popular opinion and thoughts about America/people in America/American culture held by Japanese people is often rather strange	－	11

注　連想項目は調査協力者が書いた語句をそのまま表記する。尚、日本語表記の項目は英語も併記してあったが、日本語表記のみを記載した。

また、変数間の距離行列とデンドログラムをそれぞれ表 10 と図 4 に示す。

表 10　ジャンの変数間の距離行列

	1)	2)	3)	4)	5)	6)
1)	0.000	2.000	1.000	6.000	2.000	2.000
2)	2.000	0.000	5.000	3.000	3.000	2.000
3)	1.000	5.000	0.000	6.000	1.000	2.000
4)	6.000	3.000	6.000	0.000	6.000	3.000
5)	2.000	3.000	1.000	6.000	0.000	2.000
6)	2.000	2.000	2.000	3.000	2.000	0.000
7)	1.000	5.000	1.000	3.000	2.000	1.000
8)	3.000	1.000	1.000	4.000	2.000	2.000
9)	5.000	4.000	6.000	1.000	6.000	4.000
10)	7.000	7.000	7.000	7.000	3.000	7.000
11)	3.000	4.000	6.000	1.000	4.000	3.000
12)	7.000	7.000	7.000	5.000	5.000	6.000

	7)	8)	9)	10)	11)	12)
1)	1.000	3.000	5.000	7.000	3.000	7.000
2)	5.000	1.000	4.000	7.000	4.000	7.000
3)	1.000	1.000	6.000	7.000	6.000	7.000
4)	3.000	4.000	1.000	7.000	1.000	5.000
5)	2.000	2.000	6.000	3.000	4.000	5.000
6)	1.000	2.000	4.000	7.000	3.000	6.000
7)	0.000	2.000	4.000	7.000	4.000	6.000
8)	2.000	0.000	7.000	7.000	4.000	7.000
9)	4.000	7.000	0.000	7.000	1.000	6.000
10)	7.000	7.000	7.000	0.000	7.000	7.000
11)	4.000	4.000	1.000	7.000	0.000	5.000
12)	6.000	7.000	6.000	7.000	5.000	0.000

（注）平方距離の平方根を表示。

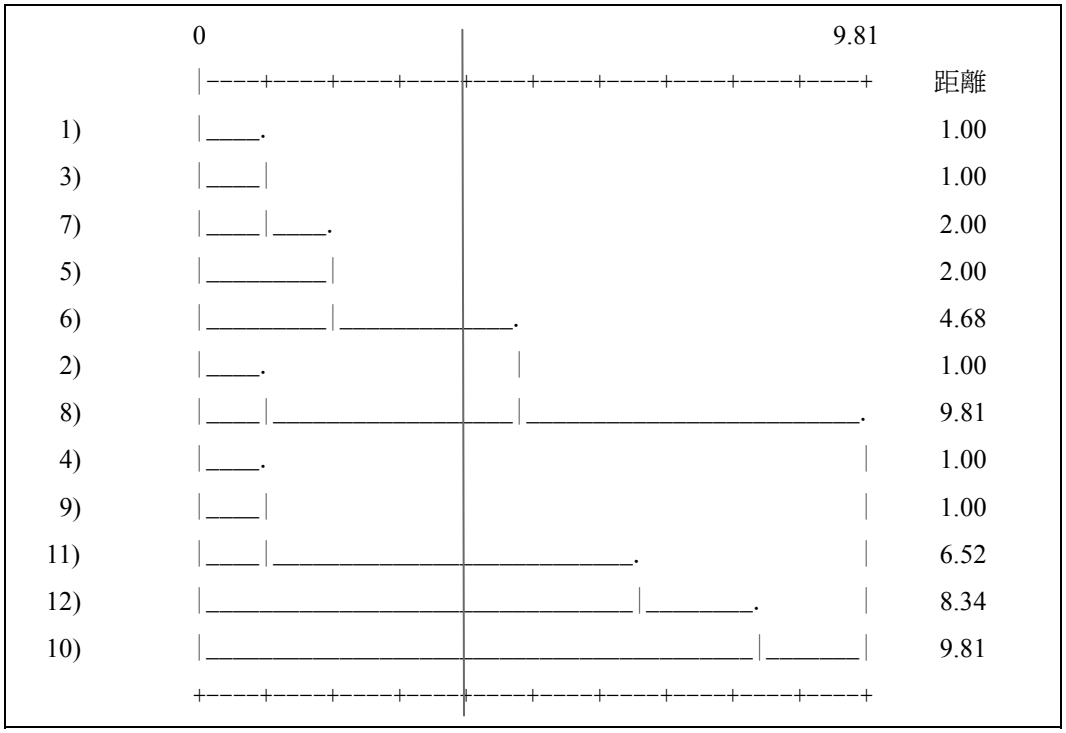

図 4　　ジャンのデンドログラム

クラスターの数は、図中の垂直線の距離で分断し、5 分割とした。その結果、ジャンのクラスター別連想項目は次のとおりとなる。

クラスター1

1. 日本語と英語はとても違っているこそ日本語の学習は面白いと思います。
3. 英語で説明しにくいことや説明できないことは日本語の一番面白いの部分だと思います。
7. The biggest improvement I had was after learning how to think in Japanese/a Japanese context rather than think in English and try to translate those thoughts.
5. いっぱんてきに日本語は他の勉強したことよりも面白くて楽しいです。
6. 日本語の学習でふつうのと違う考え方を手に入れます。

クラスター2

2. 時々、英語のより日本語のことば、ひょうげん、言い方などの方はいいとかうつくしいと思いますが、時々逆の方だと思うこともあります。
8. しんせきや友人などのぜんぜん日本語がわからない人に日本語のことについて、特に英語にないことを教えてみるのは楽しみます。

クラスター3

4. 日本語であまり「いいえ」や「好き」や「きらい」などのことばを言わないことはちょっとよくないと思います。
9. 日本語で話す時、よく失礼なことを言ってしまうしんぱいがあります。
11. 日本語の一番むずかしいのはれいぎについてのことだと思います。

クラスター4

12. From what I've seen/heard, popular opinion and thoughts about America/people in America/American culture held by Japanese people is often rather strange.

クラスター5

10. もちろんちょっとむずかしいかもしれないけど、英語より日本語の方は書くのが楽しいと思います。

３．４．１　調査協力者によるクラスターの解釈

クラスター1：　「日本や日本語の学習が面白い理由」

なんで日本語の学習が面白いと思うかの理由についてのグループ。まず、英語で説明しにくいことや説明できないことが面白いです。たとえば、ある歌詞に「私の存在など」ってあるんですが、その「など」は大抵いろいろなことを並べて言うとき使いますから、その「存在」がちょっと小さく見えます。でも、その「など」を英語に訳すのは無理です。まあ、その考えは時々説明できますが、歌詞を英語にするのは無理だと思います。別の言い方が必要だと思います。でも、面白いと思います。時々、複数の日本語の文法が一つの英語の文法に含まれますから、たぶん、英語の人はその文法が必要ないと思うかもしれないので、わかるわけがないと思います。たとえば、「いつも」「いつでも」「いつまでも」は全部違っていますが、英語で全部は always とかで、区別されていません。そんな訳せないものが面白いと思います。訳せなくてもいいと思います。また、「らしい」「みたい」「よう」「そう」の違いは直接訳すのは無理。日本語でわかるほうが簡単です。英語でもわかりますが、ちょっと日本語でわかるより難しいと思います。「てくれる」も英語でその考えはわかりますが、言いません。日本語で考える方がわかりやすいと思います。助詞も英語で考えるとだめですから、日本語で考え方を学んだ後、もっと話すのが上手になりました。去年の秋学期に助詞の使い方を習いましたが、その時「ああこの考え方の方がいい」と気づきました。その前はよく英語から日本語に翻訳してたので、間違えではなかったけど、ちょっと変な日本語になってしまいました。

それと、英語とは違う考え方が面白いです。例えば断り方。英語で例えばパーティーに誘われたときにあんまり行きたくない場合は、No, I don't think I'm going to go.はいいです。

でも、日本語でそんなことはダメです。まずは、オウム返し。「おお、今週の日曜日ですか」。そして、考えているしぐさを見せて、力んだ声で「ん～」と言って、ちょっと待って、そして「あいにくですが」とか「ちょっと用事がある」とか「もう約束があります」とか言わなくちゃいけない。でも、特に私の出身（サンフランシスコ近郊）では考えを直接言うのが普通。直接言わないとたぶん嫌われると思います。アメリカで大事なことは Don't be fake.だから、はっきり言わないとみんなは「嫌な奴、いつも嘘をついて」とか思う。

クラスター2：　「英語と日本語の比較」

たぶん、英語と日本語を比べていることだと思います。例えば、英語の cooperation は日本語で「協力」です。その「協力」が面白い理由は、「協」の漢字はたくさん小さな力が集まって一つの大きな力になるところです。だから、cooperation よりちょっと美しい言い方だと思います。そして、「など」の言い方は面白いだけじゃなくて、ちょっと詩的な言い方だと思います。でも、時々英語の言い方の方がいいと思います。例えば、I love you。I と you が含まれているからもっと個人的になります。ときどき英語と違うところを家族や親戚や友達に教えてみます。みんなにわかってもらうのは難しいけど、楽しいです。そして、教えることは自分がよく理解できるようになる方法です。わかってくれた時はたいてい面白いとか言いますが、全然わからない場合は「へー」とか、「そんなことは必要ですか」とか言います。言葉だけでなく文化も時々説明してみます。例えば、直接「いいえ」と言わないことや「善処する」という言葉。その言葉の意味がわかるためにはその文化がわかることが必要ですから。

クラスター3：　「礼儀の違い」

これは全部礼儀とか行儀とか言ってはいけないことについて。前に言いましたが、私の出身ではみんなはいつも考えを直接言いますから、個人的に私はそれに慣れているし。これは私の個人的な考え方ですが、好きや嫌いの意見をいつも言わないと、よくないことが時々起こると思いますから、特にビジネスとか大事なことについて話している場合は、直接言う方がいいと思います。

私はよく「です、ます」とか、言うのを忘れてしまいますから、ちょっと失礼な印象を与える心配が時々あります。日本語は first language ではないから、失礼な言葉だと知らずに失礼な言葉を使ってしまう心配とか。あと、一番難しいのは礼儀です。特に両手で資料を渡したりもらったりすることは、アメリカではそんなことをしないから。それから、敬語や直接「いいえ」と言わないことなども難しいです。

クラスター4：　「日本人のアメリカの印象」

例えば、日本人は時々ハリウッドの映画を見て、あれがアメリカだと思いますから、

ちょっと変な印象になります。だから、これは高校の先生の友達のことですが、その人はアメリカに着いたとき、派手で高そうなドレスを着ていたそうです。それがアメリカでは普通だと思ったそうです。まあそんなことがよくあると思います。あまり悪いことではないですが、ちょっと変な印象です。

クラスター5：　「日本語を書くのが楽しい」

英語を書くときはただ言語を書いている感じがします。でも日本語の方は、特に漢字がありますので、ちょっと絵を描くみたいな感じがします。だからちょっと英語より楽しい。平仮名やカタカナもあるし、たくさん漢字もあるので、いつもちょっと文や言葉が違うように見えます。でも英語はいつも同じに見えます。

クラスター間の比較と全体について：

日本語が面白くて楽しいとか勉強したいと思う理由は、（英語との）違いが多くて、時々完全に別な言い方があることです。そんな違いがあるからこそ面白いと思います。そして、言語だけじゃなくて文化も違っていますから、文化も面白いと思います。でも時々英語の方がいいとか、ちょっと言いやすいと思うところがあると思います。この 12 番はあんまり他のカードと関係がないですが、書くのが楽しい（10 番）というのも違いに関してだと思います。だから全部は日本のイメージや日本語と英語の違いだと思います。その違いがあるからこそ面白くて楽しいと思います。いつも興味があった学習はずっと日本語だけだったので、経済から日本語の専攻に変えました。日本語はよく難しいと言われますが、難しさより興味の方がずっと大事だと思いますから。

３．４．２　調査協力者についての総合的解釈

専攻を経済学から日本学に変更するほど日本語や日本文化を「面白い」「楽しい」と感じていることが、イメージ連想項目全体から感じ取れる。その面白さ、つまり本人の定義による「学びを刺激するもの」の原点とも言うべきものが英語やアメリカ文化との相違にあり、それを学ぶ楽しさは日本語を知らないアメリカ人にその相違を話したり、表記システムの全く異なる日本語の漢字やひらがなを使って書いたりするときに味わえるということが、全体のイメージとして伝わってくる。連想項目の 8 番と 10 番が最終的な結合をもたらしているのは、日本語学習がこのような楽しさでまとまっていることを暗示していると解釈できよう。

調査協力者が命名した各クラスターのタイトルは、「日本や日本語の学習が面白い理由」「英語と日本語の比較」「礼儀の違い」「日本人のアメリカの印象」「日本語を書くのが楽しい」であった。本人も述べているように、イメージ連想したすべてのクラスターが日本語と英語を比較対照するという視点で成立している。「英語と全然違う言語を勉強したかった」

という動機で日本語を学習しようと決意したことを考慮すると、両言語の相違に敏感に反応するのも納得がいく。

それらの言語的、文化的相違を「面白い」と肯定的に受容する一方で、「いいえ」「好き・嫌い」などを直接表現したほうがいいなどと、英語やアメリカ文化のほうが良いというような個人的な価値観を含む評価も行っている。また、敬語表現や断り方などの言語的、また物の渡し方などの動作的なマナーを間違うことを恐れている。これらのことから、日本語や日本文化に対する批判的な見方とそれらに従わなければならないという規範的な意識の両者が内在しているイメージが読み取れる。このような葛藤の中で、英語と違うところや英語に訳せないところは無理に英語で考えて訳さずに、日本語で考えるほうが理解しやすいことに気づき、それ以降日本語が上手に話せるようになったと感じている。英語との比較をやめて、日本語をそのまま受容しようとする態度への変化の表れであろう。

３．５　グレッグ（アルメニア系 2 世）の事例

グレッグの連想項目、想起順位、重要度順位、及び印象は表 11 のとおりである。重要度順位の上位 3 分の 1 の項目は、「最初の日本語の先生」「達成感」「上達」「言語を学ぶことによって教えることが好きになった」である。これらの項目から、日本語を習い始めたときの教師の影響により、その後の日本語の上達やそれに起因する達成感を味わうことができ、ひいては教師になろうと思うまでになったことがイメージできる。項目別のイメージでは、プラスが 9、マイナスが 1、どちらとも言えないが 2 であり、圧倒的にプラスイメージの方が強いことを示唆している。

表 11　グレッグの連想項目一覧

重要度順　位	連想項目	印象	想起順位
1	My first Japanese teacher:　Being able to follow in his footsteps, and show him my progress	＋	12
2	Having a sense of accomplishment:　Being able to track my progress.	＋	4
3	Visible progress over the years:　Comparing my progress as a language learner.	＋	3
4	Language learning inspired me to love teaching	＋	6
5	Japanese language learning has taught me to be more organized. Organization.	＋	8
6	Having discipline and patience is crucial to successful study	＋	2
7	Goes from difficult to easy, unlike English	－	10
8	Teaching helps me become a better language user	＋	7
9	Japanese has systematic linguistic structure.	＋	1

重要度順　位	連想項目	印象	想起順位
10	Language learning means I can communicate easily with others.	＋	5
11	Culture and language are intertwined	0	11
12	Japanese language & culture has a sense/image of social harmony.	0	9

注　連想項目は調査協力者が書いた語句をそのまま表記する。

また、変数間の距離行列とデンドログラムをそれぞれ表 12 と図 5 に示す。

表 12　グレッグの変数間の距離行列

	1)	2)	3)	4)	5)	6)
1)	0.000	3.000	2.000	1.000	4.000	6.000
2)	3.000	0.000	1.000	2.000	4.000	4.000
3)	2.000	1.000	0.000	2.000	6.000	6.000
4)	1.000	2.000	2.000	0.000	3.000	3.000
5)	4.000	4.000	6.000	3.000	0.000	2.000
6)	6.000	4.000	6.000	3.000	2.000	0.000
7)	7.000	5.000	5.000	7.000	7.000	3.000
8)	1.000	4.000	3.000	1.000	6.000	4.000
9)	7.000	7.000	7.000	2.000	3.000	4.000
10)	2.000	3.000	1.000	4.000	7.000	4.000
11)	4.000	7.000	7.000	7.000	7.000	7.000
12)	7.000	7.000	7.000	7.000	7.000	7.000

	7)	8)	9)	10)	11)	12)
1)	7.000	1.000	7.000	2.000	4.000	7.000
2)	5.000	4.000	7.000	3.000	7.000	7.000
3)	5.000	3.000	7.000	1.000	7.000	7.000
4)	7.000	1.000	2.000	4.000	7.000	7.000
5)	7.000	6.000	3.000	7.000	7.000	7.000
6)	3.000	4.000	4.000	4.000	7.000	7.000
7)	0.000	4.000	2.000	3.000	6.000	7.000
8)	4.000	0.000	2.000	3.000	7.000	7.000
9)	2.000	2.000	0.000	5.000	6.000	7.000
10)	3.000	3.000	5.000	0.000	3.000	5.000
11)	6.000	7.000	6.000	3.000	0.000	2.000
12)	7.000	7.000	7.000	5.000	2.000	0.000

(注) 平方距離の平方根を表示。

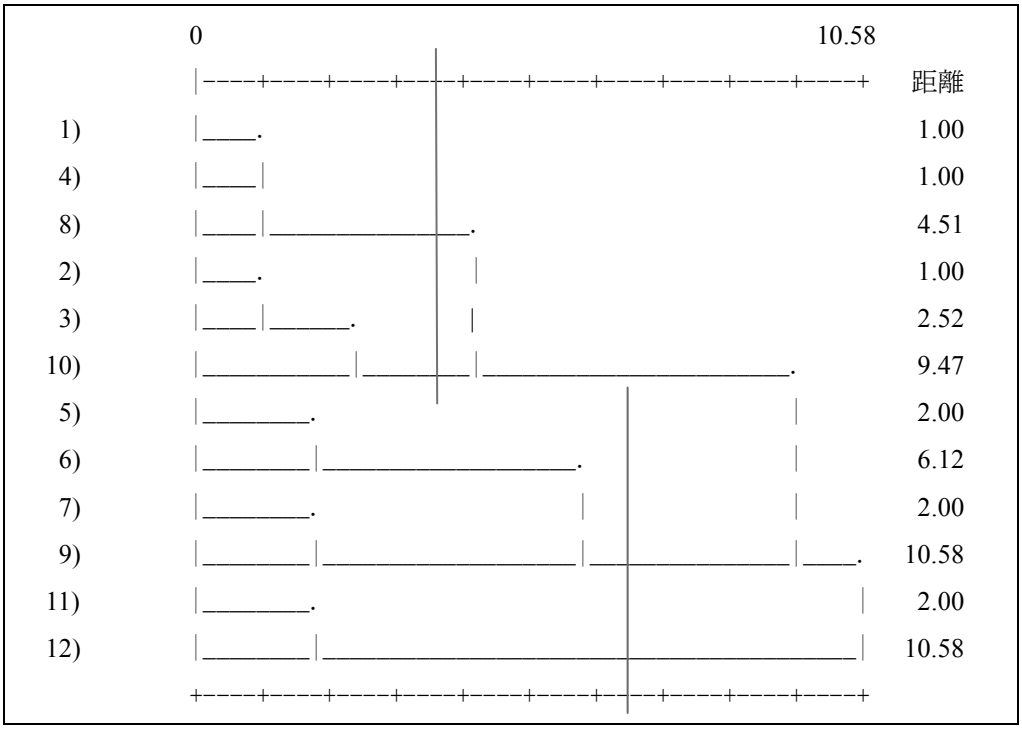

図 5　グレッグのデンドログラム

初めに図中の 6.5 あたりの距離で分断し、3 分割を提案したが、調査協力者の判断で第一のクラスターだけ 3.5 あたりで分断して 2 分割することにした。その結果、クラスター数は 4 つとなり、ジャンのクラスター別連想項目は次のとおりとなった。

クラスター1

1. My first Japanese teacher:　Being able to follow in his footsteps, and show him my progress.
4. Language learning inspired me to love teaching.
8. Teaching helps me become a better language user.

クラスター2

2. Having a sense of accomplishment:　Being able to track my progress.
3. Visible progress over the years:　Comparing my progress as a language learner.
10. Language learning means I can communicate easily with others.

クラスター3

5. Japanese language learning has taught me to be more organized. Organization.
6. Having discipline and patience is crucial to successful study.

7. Goes from difficult to easy, unlike English.
9. Japanese has systematic linguistic structure.

クラスター4
11. Culture and language are intertwined.
12. Japanese language & culture has a sense/image of social harmony.

３．５．１　調査協力者によるクラスターの解釈

クラスター1：　「目標」

あくまで Teaching のことですね。日本語の先生になるのは将来の夢ですから、日本語の勉強イコール日本語の先生ですから、いい日本語の先生になるために日本語も上手になりたいなと思ってるんです。私の一番最初の日本語の先生は大恩師なんです、私にとって。ですから、その先生みたいな先生になるのが将来の夢というかゴールなんです。その日本語の先生は 1950 年から先生やったんですけど、学生のことをとても大事に思う先生なんです。たとえば学生のためにフラッシュカードを作ってくれたり、オフィスアワーを長くしてくださったり、とってもいい先生でした。アメリカ人の子供や大学生をインスパイアさせるためにいい先生になりたい。そのいい先生になるために、やっぱり日本語ももっともっと練習したほうがいいと思ってるんです。

クラスター2：　「上達」

日本語をもう 8 年間勉強してきたんですけど、最初に日本語を勉強し始めたときと今を比べるのが好きなんです。最初は平仮名しか書けなくて、会話も少ししかできなかったんです。今は、まだ全然ダメですけど、もうちょっと長い会話もできるんですね。その上達に誇りを持ってるんです。4 年ぐらい前から上手になったなと感じてます。今は日本語で考えながら同時に話せます。間違えを言うときもあるんですけど。それに、話す相手によって言語と話し方を変えます。日本語はもうちょっと、何と言うか、曖昧にするんですね。たとえば、英語だと I hate that person. と言えるんですが、日本語だと「嫌いです」みたいじゃなくて、「あの人ちょっとね」みたいな、ちょっと言い方変えるんですね。日本語では嫌いという言葉はとても強い言葉ですね。あんまり言わないほうがいいんじゃないかなと思ってるんです。それに、アメリカ人は誰とでも同じ声で話します。友達でも先生でも。でも、日本人の友達と話す時は、もし親友じゃない場合はたぶんちょっとソフトにするんですね。

クラスター3：　「Organization（体系化）」

日本語は私が思うにはとても規則的な言語です。たとえば、動詞は「食べます、食べません」、「飲みます、飲みません」と同じふうに変化します。でも英語は brought、 thought、

全然違います。だから日本語を勉強するときも、やっぱり organize（体系化）しないとあんまり上手にならないと思います。それから、体系的に勉強するには必ず disciplined（まじめに）に勉強しないと無理ですね。Patience（忍耐）も大事だし。英語と比べると日本語は構造が systematic です。アルメニア語はルールはないです。たとえば、日本語は不規則動詞が二つしかないですね。「する」と「来る」。ま、「行く」は「て-form」の場合はそうですけど。漢字の勉強も左が部首で右側が音。だから漢字はとても規則的じゃないかなと思ってるんです。最初の頃は直接法で習ったので文型が難しかったです。でも公式というふうにすれば、たとえば「____は____です」というふうにすれば、それは organized という考え方ですね、ただ言葉を入れて文を作るというのは。そういうふうにすれば、文型を学ぶのはもっと簡単じゃないかなと思います。日本語は最初は難しいですが、後から簡単になります。英語やアルメニア語は最初は簡単なようですが後から難しくなっていくような感じです。

クラスター4：　「文化」

これ、文化的ですね。文化が理解できないと、やっぱり日本語を上手に話すのは難しいと思います。たとえば推薦状をお願いするときに、アメリカ人はたぶん、I need you to write me a letter, please.という学生もいるんです。でも日本語だと、まず background information を必ず言わないといけない。「先生、ちょっとお願いがあるのですが」。あとは「大学院に申し込みたいのですが、もしお時間があれば推薦状を書いていただけないでしょうか」というふうに。でも文化がわからないと、文化だけじゃなくコミュニケーションの仕方がわからないと、こう言えませんね。だから、やっぱり文化も ちゃんと勉強しないと言語を使うのは難しいと思います。逆もそうです。日本語のことが全然わからないと、日本文化についてあんまりわからないと思います。それに、日本語ができないと文学のニュアンスがわからないと思います。翻訳で読んだとしてもやっぱり原書で読むのは、言葉のニュアンスがわかるからなんですね。たとえば、誰かに「パーティーあるけど来ない？」と誘われて、もし忙しくて行けない場合、アメリカ人だと I can’t go, sorry.と言うけど、日本人は「あの～、ちょっと～、あしたは～、あの宿題があるんですけど」みたいな。これは日本語を勉強したからわかるんです。文化のクラスとっても、やっぱりそんなによくわからないと思います。ある現象としてはわかると思いますけど、実際にどういうふうに反応すればいいかは、やっぱり言語を勉強しないとだめです。

クラスター間の比較と全体について：

やっぱり一つのフレーズにしたら、「前の僕、今の僕、将来の僕」。前の僕はどのようにやってきたかというのがあって、今の僕は先生になりたいという夢で、将来の僕はやっぱり日本語の先生になりたいという夢ですけど。で、discipline（自己管理）、patience（忍耐）、

organization（体系化）なんかないと、上達できないというのが私の意見です。だから一つのフレーズにしたら、「前の僕、今の僕、将来の僕・・・は日本語です」みたいな。日本語を勉強しているアメリカ人の学生はいつも Japanese is so hard, no rule.と言ってますから、「いいえ、日本語は systematic ですよ」というふうに説明すれば、文句はあまり言わないと思います。

補足的質問：

＜12 番の social harmony というのは？＞たとえば友達が二人いて、一人はメキシコ料理が食べたいと思っています。もう一人はアルメニア料理を食べたいと思っています。メキシコ料理を食べたい人はアメリカ人で、I want to eat Mexican food とパッと言えるんですね。アメリカ人だと他の人が思っていることはあんまり気にしない。Too bad みたいな感じで。もう一人の人はメキシコ料理が嫌いですけど何も言えません。日本人だと、自分が食べたいものをパッと言えないと思います。もうちょっと気を配る。こんな態度が social harmony です。Social harmony を作るために、自分が思っていることはパッとストレートに言わない。負担をかけたくないみたいな。

３．５．２　調査協力者についての総合的解釈

重要度最上位の連想項目が最初に出会った日本語教師に関するイメージであった。グレッグにとってその教師の存在は大きく、その後の人生を左右するほどの影響力を持っていたようだ。その先生に自分の日本語力の進歩を見てもらいたい、教師として先生の足跡をたどる自分を見て喜んでもらいたいという気持ちが伝わってくる。日本語を習い始めたころの自分と今の自分を比較して、目に見える日本語の上達を感じて誇りに思っている。ここまで来るために、学習者として守ってきたことは organization（体系化）、descipline（自己管理）、patience（忍耐）の 3 つであった。日本語は難しそうに見えるが、英語などと比べて規則があるので、それをしっかり整理すればそんなに難しくはない。このことを日本語学習から学んだ。結局、言語を学ぶのは誰とでもコミュニケーションできるようになるためだ。しかし、そのためには言語だけでなく、文化を理解することも必要だと感じている。例えば、日本語でコミュニケーションするには、相手にも配慮をして social harmony を作ることが求められるが、これは言語と文化の両方の知識がないとできないと考えている。連想項目 10 番が 9 番と結合し、最終的に 12 番と結合していることは、コミュニケーションの上達には日本語の言語構造を理解するだけでなく、日本語と日本文化の特徴である相手を配慮する態度（social harmony）の習得も不可欠だというイメージを暗示していると解釈できよう。本人が総合的解釈として語った「前の僕、今の僕、将来の僕・・・は日本語です」という言葉に、日本語学習に打ち込み、将来は日本語教師として活躍する夢を強く抱く熱き学習者像が浮かんでくる。

４．総合的考察

本章では本調査の 5 つの事例を総合的見地からながめ、その共通点や相違点について検討する。本研究はもとより言語的背景が異なる 5 人の学習者の日本語学習イメージを質的に調査することを目的としている。従って、本章で 5 人のイメージを比較するのは 5 人の個別のイメージをより理解しやすくするためであり、一般的な傾向を提示しようとするものではないことに留意していただきたい。

４．１　5 人のイメージ構造の特徴

5 人の調査協力者の日本語学習に対するイメージ構造の特徴を、協力者自身が命名したクラスターのタイトルと全体的なイメージ解釈、そして「立ち位置」といった視点から概観してみよう。

エリー（新日系 2 世）の事例では、「日本人の私」「出逢い」「苦難」の 3 つのクラスターに分類している。嫌々通った補習校の苦しい経験が、後に「出逢い」と「日本人の私」に近づけたことによって報われたと捉えている。「わかんないことや難しいことがあるんですけど、それでもやっぱり、ずっと日本語を勉強しててよかったなっていうイメージ」である。日本語学習が自分の中の「優しさや心遣いを重要とする」日本人的性格を作り、「外見とちゃんと内面があってる感じがして」安心感を抱くことができた。エリーにとって、日本語学習は自己のエスニック・アイデンディティを構築する役割を果たしていた。エリーのイメージ構造の特徴を命名すると「エスニック・アイデンティティの形成」と言えよう。

ノア（日系 5 世）の事例では、「日本語を勉強する理由」「Challenging（大変なこと）」「高コンテキスト言語はややこしい」の 3 つのクラスターに分類している。大学で日本語学習を始めて、日本文化の活動にも参加しているのは、日本関係のサークルの仲間との出会いが大きな理由となっている。「Learning Japanese is fun and useful」と書いているとおり、ノアにとって日本語学習は仲間とのネットワークを形成するために有益で、いわば道具的意味合いを持っていたと言えよう。3 つのクラスターのうち 2 つまでが日本語学習に対するネガティブなイメージであるが、「それも日本文化の一部なので、もし日本文化を学びたいなら、その部分も受け入れないといけない」と意識的にバランスを取ろうとしている態度が窺える。ノアのイメージ構造の特徴は「エスニシティのネットワーク形成」と呼べるだろう。

テリー（日系 4 世）の事例では、「日本語習得の難しさ」「学習前の日本語の印象」「言語学習の重要性」の 3 つのクラスターに分類している。エリーやノアとは違い、日系ネットワークを持たないテリーは日本語学習を個人的なこととしてより、学問的な視点で捉えている。第一クラスターの「日本語習得の難しさ」を「終わりのない学習の旅」と述べ、日本語という一言語の学習から「言語学習の重要性」へと一般論化する態度は、日本学を専攻する学生として真摯に学ぶ姿を感じさせる。「日本語学習で遭遇した日本語の複雑さは、まさに他の文化や世界観に対する自分の認識を広げてくれた」という言葉から、テリーにとって日本語学

習は単なる言葉の学習に終わらず、グローバル化社会におけるパラダイムシフトの重要性を教えてくれる役割を果たした。テリーのイメージ構造の特徴は「世界観の拡大へ」と呼べるだろう。

ジャン（イタリア系 3 世）の事例では、「日本や日本語の学習が面白い理由」「英語と日本語の比較」「礼儀の違い」「日本人のアメリカの印象」「日本語を書くのが楽しい」の 5 つのクラスターに分類している。ジャンのクラスターを貫いているイメージは「日本語は英語と違う」ということである。その違いが「面白い理由」や「楽しい」ことでもあり、難しい点でもある。しかし、ジャンは日本語の難しさを前面に押し出しておらず、それも面白さとして日本語学習を推進する動機となっている。世の中にこんな言語や文化があったのかといった新鮮なイメージが伝わってくる。「違いがあるからこそ、面白くて楽しいと思います。いつも興味があった学習はずっと日本語だけだった」という言葉に、ジャンの日本語学習に対する思いが感じられる。ジャンのイメージ構造の特徴を命名すると「日英の相違への興味」と言えようか。

グレッグ（アルメニア系 2 世）の事例では、「目標」「上達」「Organization（体系化）」「文化」の 4 つのクラスターに分類している。グレッグの 8 年間の日本語学習のスタート地点には、彼が恩師と呼ぶ日本語教師がいた。もしその教師に出会わなかったら、日本語の上達はもとより、日本語教師を目指すこともなかったかもしれない。それほど大きな影響を受けたことが、クラスター「目標」「上達」に表れている。学習者として、また将来の教師として、「Organization（体系化）」と「文化」は日本語の上達には不可欠なことだと認識している。「前の僕、今の僕、将来の僕・・・は日本語です」というイメージのとおり、日本語学習はグレッグの人生に大きな影響を与えた。グレッグのイメージ構造の特徴を命名すると「日本語教師への夢」となろうか。

次に、日本語学習に対する 5 人の「立ち位置」という視点から 5 人の特徴を述べたい。5 人の調査協力者はイメージ想起文や語りの中で「面白い」や「fun」といった言葉を多用しているが、唯一エリーだけは一度も使っていない。一般的に人が何かを「面白い」と言うとき、その何かを心理的に自分の外側に位置するものとして捉えてそう言うのではないだろうか。エリーにとって日本語は自分とは別の何かという捉え方ではなく、自分の中の一部という捉え方をしていたのではないかと思う。クラスターの「日本人の私」でも、自分の中の日本人の部分に近づけて安心したとある。エリーとは反対にジャンは英語やアメリカの視点から日本語を眺めその相違に面白さを感じている。つまり、エリーの立ち位置は日本語や日本文化の中で、ジャンは英語やアメリカ文化の中にいるという構図が見えてくる。その他のノア、テリー、グレッグの 3 人はそのどちらにも属さない、両言語・文化の外側に立っていると捉えられようか。日系アメリカ人のエスニシティと日本語学習については、次節で検討する。

以上、5 人の学習者は程度の差こそあれ、日本語の難しさを感じて葛藤しながらも、日本語学習に対して恩恵や強い興味を抱いており、肯定的なイメージを持っていることがわかっ

た。そして、そのイメージは過去の日本語学習の中で経験した出来事（補習校の経験、友達や恩師との出会い、困難、発見など）によって形を変え、費やした努力の大きさによってイメージの強さが変わる（例えば、日本語学習に対して献身的だったたエリー、テリー、グレッグは、学習からの恩恵を強く感じている）ことがわかった。また、学習者によって対象を眺める立ち位置に差があることも観察された。

４．２　日本語学習と日系エスニシティ

3 人の日系アメリカ人がイメージ調査中に語った言葉と調査後の雑談の中から日系エスニシティと関わる言葉を拾い集めて、日本語学習とエスニシティとの関係について記述してみよう。

まず、日本語学習動機については、エリーは子どもの時から日本語を話す家庭で育ち、親に日本語補習校に通わされていたため、日本語学習は自分の意思によるものではない。いわば、「日本人が日本語を学ぶのは当然」というような環境が親によって作りだされていたと言えよう。テリーは「日本語の文字や書き方が（もう一つの選択外国語の）スペイン語より面白いと思ったから」「自分は日系人で日本語は自分の継承文化だから」「その頃は日本に行ってみたいとも思っていた」などであったが、その中でも「自分の文化的歴史と再びつながろうとしていたことが、日本語を選んだ大きな理由だ」と言う。ノアは「大学で何か違う科目を勉強したいと思っていた」こと、「自分は半分日本人」であること、「高校生の時日本人の彼がいたこと」などから日本語学習を始めた。自分の意思で日本語学習を決めた二人の動機には、日系人というエスニシティが大きく影響していることがわかる。

次に、日本語学習が日系エスニシティにどういう影響を与えたかという点を見てみたい。エリーは「日本語の中でそういう（＝優しさとか心遣いの性格を持つ）自分を見つけられた」「日本語を話せることによって、その自分（＝日本人に一番近い自分）に近づけた」「外見とちゃんと内面が合ってる感じがして」「ああよかったなと思える」感じがすると述べている。そして、その「日本人の私」とアメリカ人の自分は「どっちの自分が好きとか嫌いとかはなくて、「どっちもいないと、何か自分ではない気がしちゃ」うと感じている。つまり、エリーは日本語が話せることで日本人とアメリカ人の両方のアイデンティティをバランスよく形成できたということになろうか。

テリーは「母は日本文化の影響をあまり受けない環境で育ったので、かなり直接的だ。だから自分も日本語を勉強する前はそのような感じだったが、今は日本語のそのような間接的な応答などを理解したので、なぜかそのように応答したほうが自分にあっていると感じているし、その方が好きだ」「たぶん単に自分自身のパーソナリティかもしれない。自分はどちらかというと受動的なほうなので」と述べている。そして、日本語で話す時だけでなく、英語で話す時もそのような間接的表現を使うようになったという。日本語学習によって日本文化を理解し、それを好ましいと思う自分を発見している。それがエスニシティと関係があるか

はわからないが、「ある意味それは両親に欠けていた部分だったので」「自分の文化的歴史と再びつながろうとした」努力は報われたということになろう。3 世までで途切れてしまった日本とのつながりがなぜ 4 世で回復されようとしたのか。それについて Tsuda（2014）はそれまでの世代が日本を Diaspora 意識（自分たちはそこから離散し移住したという意識）で捉えていたのに対して、4 世は日本を J‐pop culture の国として、留学や就職の対象としてポジティブなイメージで捉えるように変化したからだと述べている。テリーの場合も、日本のアニメやビデオゲームが最初に触れた日本語だったと述べている。

日系人の父とベトナム人の母を持つノアは、「ハワイの自分の文化を実践しているとき、日本やベトナムとのつながりを強く感じ」「自分の一部は日本人だと感じて」いる。彼女にとって日本語も文化も「すること」だという意識があり、日本語学習を始める以前から、ハワイの文化の中に日本文化を見出していた。しかし、「日本の文化がわかったら、自分のハワイ文化がもっとわか」るようになり、人に対する接し方や集まりを好むという日本文化が「自分の家族の文化に似ていて、納得でき」たと言う。彼女の場合はハワイや自分の家族の文化の中で生活することを通して、以前から日系エスニシティを意識しており、それが日本語学習によって深められた。

以上、異なる背景を持つ 3 人の日系アメリカ人の日本語学習とエスニシティの関係を概観したが、日本文化が色濃く残る新日系 2 世は日本人とアメリカ人の両方のアイデンティティをバランスよく形成し、日本文化がほとんど継承されていない家庭で育った日系 4 世は途切れてしまった日系エスニシティと再びつながることができ、日本文化を感じながら育った日系 5 世は複文化的な自分の家族の文化をより深く理解できるようになったと解釈できよう。

４．３　日本語の難しさ

日本語学習に対するイメージ調査の中で、全員が日本語の難しさについて言及している。そこで、どのような点が学習上の問題となっているのか、つまり、英語を母語とする学習者にとって習得が困難な日本語の特徴とは何かについて、調査協力者が語った内容から拾い出してみよう。

表 13　日本語の難しい点

	項目	例
1	助詞	
2	スラングの多さ	スタバ、コンビニ、など
3	高コンテキスト	代名詞を言わない。
4	日本語らしい文	英語的発想で組み立てられた文は不自然
5	年齢相応の話し方	初級レベルの日本語表現で止まっている。
6	敬語	

	項目	例
7	間接的表現 （ほのめかし、曖昧表現）　＊10 参照	－直接的表現「あの人は嫌いです」 ⇔「あの人はちょっとね～」 －「いいえ」と言ってはいけない。
8	表と裏	「今度いっしょに～に行こう」は真意？
9	ウチとソト	人前では自分の子供を悪く言う。
10	スピーチアクトの仕方 （相手に対する配慮、social harmony）	－断り「（相手の言葉をオウム返ししてから）ん～。その日は～があって。すみませんがちょっと～」 －依頼「ちょっとお願いがあるのですが。実は～んですが、お時間があったら～ていただけないでしょうか」 －レストランを決めるとき、自分から何が食べたいと言わない。

こうしてみると、言語学的な知識というよりも、日本の社会や文化の規範に適合した実際の言語運用を困難に感じていることが窺える。日本語上級者になっても、こうした日本文化と深く結びついたコミュニケーション・スキルの習得は大きな課題となっていると言える。

４．４　日本語学習における信念

調査協力者の多くは日本語学習に対するイメージを語る中で、言語習得にとって重要なこととして次の 2 点に言及している。それは、英語ではなく日本語で考えること、そして、言語と文化を一緒に勉強することである。

前者については、「（主語や目的語を言わないこと、ウチとソトにおける日本語表現について）アメリカ人の考え方では理解できない」（ノア）、「（間接的な断り方などについて）本当に理解するには、自分の認知の仕方を日本の認知の仕方にシフトしなければならない」（テリー）、「（英語に訳せない助詞や種々の様態表現などについて）日本語で考え方を学んだ後、もっと話すのが上手になりました」（ジャン）などと述べられている。

また、後者については、様々なポライトネスレベルを持つ待遇表現は日本の階層的社会を知っていれば理解しやすいし、依頼や誘いを断る時に明らかな断りに見えないようにする理由を知らなければ、日本の文化に合った適切な表現を用いることは難しい（テリー）。だから「文化が理解できないと、やっぱり日本語を上手に話すのは難しい」し、逆に「日本語のことが全然わからないと、日本文化についてあんまりわからない」（以上、グレッグ）ということになる。「なぜなら二つはコインの表と裏だから」（テリー）だというのが彼らが日本語学習において持っている信念である。

５．おわりに

本研究ではアメリカの大学で日本語を学ぶ日系アメリカ人と非日系アメリカ人の学生 5 人が日本語や日本語学習に対してどのようなイメージを持っているかを個人別態度構造分析（PAC 分析）を用いて明らかにしようと試みた。その結果、5 人とも日本語学習について難しさを感じながらも何らかの恩恵を感じており、肯定的なイメージを抱いていることがわかった。そして、そのイメージは個々の日本語学習歴の中で経験した出来事や費やした努力の大きさに影響されること、どの立ち位置から対象を眺めるかによってイメージに差が表れることが観察された。また、日系人学習者は皆エスニシティに関わるイメージを抱いているが、その影響の仕方は日系のタイプや家庭におけるエスニシティの保持の有無によって異なることがわかった。さらに、外国語を習得するにはその言語で考えること、その言語の文化を理解することが重要だという共通の信念が見られた。

留学生に日本語を教える日々に追われる中で、何をどう教えるかという教授面に多くの意識を集中し、学習者を日本語を学ぶモノという側面でしか見ていないことに気付くことがある。本当はそうではなく、学習者が日本語や日本文化や日本語学習に対してどんなイメージを持ち、どんな態度で授業に臨んでいるのかを知ったうえで、授業を実践し、個々の学習者の習得を考えてあげることが大切ではないかと思う。多くの学習者を抱える教師がその一人一人のことを丸ごと理解するのは容易なことではないだろうが、しかし、日本語教育を実践する上でそのような姿勢を持つことは大事なことではないかと思う。

また、今回の調査で非日系アメリカ人 2 名が日本に行った経験もなく、上級レベルまで日本語能力を上達させていることを知り興味深く思った。二人は 14 歳から学校の外国語選択科目として日本語を学習し始めている。日本のポップカルチャーに興味を持つ人が一人で日本語を習得するケースもあるが、やはり中学・高校での学習機会がその後の日本語能力の上達のみならず、日本語学習者数の拡大に大きな影響を与えると言っていいだろう。

最後に今後の課題としては、より多くの異なる背景を持つ学習者に対する調査の実施、日本語習得が遅い学習者や途中で学習を諦めた人などへの調査などが考えられよう。このような学習者の個人別イメージ調査を通して、アンケート調査等による量的調査では得られなかった部分が明らかになるだろう。また、これらの日本語学習に対する学習者のイメージ調査の結果は、日本語の学習開始動機、学習継続動機、第二言語習得などの研究や、日本語教育政策の基礎的データとして価値を持つものと思われる。

【参考文献】

安龍洙・渡辺文夫・内藤哲雄（2004）「日本語学習者と日本人日本語教師の授業観の比較－個人別態度構造分析法（PAC）による事例研究－」『茨城大学留学生センター紀要』02、49－59

小澤伊久美・丸山千歌（2009）「PAC 分析における好ましい統計処理とは　－ソフトウェアによってデンドログラムが相違する問題への対処のために－」『ICU 日本語教育研究』6、25‐47　国際基督教大学日本語教育研究センター

小澤伊久美・嶽肩志江・坪根由香里・八田直美（2011）「PAC 分析を日本語非母語話者に日本語で実施する際の留意点　－タイ人新人日本語教師への PAC 分析から－」『ICU 日本語教育研究』8、19‐34

清田薫（2008）「日本語学習者の「日本語」に対するイメージ--成績上位者と成績下位者のイメージに関する調査」『日本語教育論集』17、17-22、姫路獨協大学大学院言語教育研究科日本語教育コース

Takeyuki (Gaku) Tsuda (2014)　Diasporicity and Japanese Americans（Global Japan Forum 2014, UCLA Terasaki Center for Japanese Studies における発表）

坪根由香里・八田直美（2009）「ノンネイティブ日本語教師に対する『いい日本語教師』に関する PAC 分析－その結果および PAC 分析使用の意義と留意点－」『言語文化と日本語教育』38 号（第 38 回日本言語文化学研究会ポスター発表要旨）、お茶の水女子大学日本言語文化学研究会、85‐88

内藤哲雄（2002）『PAC 分析入門「個」を科学する新技法への招待（改訂版）』ナカニシヤ出版

内藤哲雄（2008）「PAC 分析を効果的に利用するために」『人文科学論集』42，15‐37　信州大学

中橋真穂（2012）「日系アメリカ人 4 世のライフストーリー：日本語学習とエスニック・アイデンティティに着目して」『大阪大学言語文化学』21，43－55　大阪大学言語文化学会

八若壽美子・池田庸子（2005）「韓国人留学生の日本語学習における自己評価－PAC 分析を用いた事例的研究－」『共生時代を生きる日本語教育－言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集』443‐456　凡人社

八若壽美子(2006)「インドネシア人留学生の日本語学習の自己評価－PAC 分析による事例的研究－」『茨城大学留学生センター紀要』04、13‐21

藤田裕子（2007）「日本人学生とのやり取りを通した作文授業の影響－PAC 分析による学習者理解」*JALT Journal*、29（1）、81‐97

横林宙世（2005）「日本語能力の低い留学生に対しての面接調査－PAC 分析の有効性」河原崎幹夫先生古希記念論文集実行委員会（編）『教師づくり教材づくり日本語教育』凡人社、71‐82

Perception of Japanese Language Learning by Japanese Americans and Non-Japanese Americans:
Qualitative Research by Personal Attitude Construct (PAC) Analysis

Yasue Hara

Abstract

This paper illustrates, by means of the personal attitude construct (PAC) analysis, how five Japanese and non-Japanese American students who learn Japanese at a university in the states have a perception of the Japanese language and learning Japanese. The research shows that all students feel some sort of benefits by learning Japanese despite the fact that they find it difficult, which means that they have a positive perception of learning Japanese. The research also shows the following: perception is affected by incidents that one has experienced and how much effort they have made in learning in the past; it varies depending on a point of view; all Japanese-Americans have a perception affected by their ethnicity but the kind of influence varies depending on whether young Japanese-Americans' families are second generation or multi-generation and the presence or absence of Japanese culture preserved at one's home; and they share a belief that it is important to think in a language one learns and to understand its culture in order to acquire a foreign language.